

## キャッシュフロー計算書基礎の基礎

### 1. キャッシュフロー計算書とは

「キャッシュフロー計算書」近頃よく目に耳にする言葉です。新聞、雑誌、書籍に出ていた「キャッシュフロー計算書」を拾ってみました。

・キャッシュフローとは企業に実際に入出入りするキャッシュ（現金及び現金同等物）の出入り額をいう。キャッシュフロー計算書とはその流れを指標化したものである。

・「キャッシュフロー計算書」は、キャッシュ（現金）のフロー（流れ）、つまり、1年間の企業の現金の流れをとらえる財務諸表です。

・「キャッシュフロー計算書」は、現金あるいはそれらに近いものだけ（現金同等物）にかぎって、それら現金及び現金同等物の流れを示すものです。現金及び現金同等物だけにスポットを当てることに特徴があります。

・損益計算書（P/L）や貸借対照表（B/S）は、必ずしも実際のお金の流れと一致するものではありません。ところが「キャッシュフロー計算書」は1年間の現金及び現金同等物の増加・減少をハッキリさせます。「キャッシュフロー計算書」が第三の決算書と呼ばれるのはこのためです。

・「キャッシュフロー計算書」は、損益計算書（P/L）と貸借対照表（B/S）と連動しており、現金及び現金同等物だけを対象にしているだけで、基本的には（P/L）と（B/S）から作成されます。「キャッシュフロー計算書」における会計年度期間中の現金及び現金同等物の増減は、（B/S）上の現金及び現金同等物の増減と一致します。

・会社の利益と実際の現金にはズレがあります。それを修正しようというのが「キャッシュフロー計算書」であり、損益計算書（P/L）や貸借対照表（B/S）だけでは表せない資金上の活動状況を示すことを目的としています。

・「キャッシュフロー計算書」は、「儲かったのなら、お金も増えるはずだ」という極めて単純な考え方に立ったもので、「勘定合って銭足らず」ではなく「勘定合って銭足りる」という経営のための財務諸表である。

・「キャッシュフロー計算書」は、会社が営業活動においてどれくらい資金を獲得したか、財務活動でどれくらい資金を調達したか、その資金をどのように運用したかを示すもので、結果的にその会社にどれくらいの債務返済力があるかを客観的に示します。

などなど・・・

### 2. 資金の実態を三つの区分で読む

「キャッシュフロー計算書」は、次のような三つの区分で報告することになっています。

区分を見てわかるように、キャッシュフロー計算書は、ほぼ企業活動の全体をカバーしており、しかもベースがキャッシュのため企業サイドで意図的な操作がしにくいという特徴を持っています。

またキャッシュとう軸が同じであるだけに三つの区分を比較して見ることで、企業活動の実態が見やすいという特徴を持っています。

#### ①営業活動によるキャッシュフロー

『営業活動によるキャッシュフロー』は、会社が本来の営業活動（収益獲得活動）を通してどれくらい資金を獲得したかを表す。

【売上の入金－仕入の出金－営業経費の出金】

## ②投資活動によるキャッシュフロー

『投資活動によるキャッシュフロー』は、営業活動で得た資金が、将来の利益獲得のためにどれくらい投資（設備投資や資産の処分、貸付・回収など）されたかを表す。

【固定資産の売却による入金＋有価証券の売却による入金－固定資産の購入による出金－有価証券の購入による出金】

## ③財務活動によるキャッシュフロー

『財務活動によるキャッシュフロー』は、営業活動や投資活動のためにどれくらいの資金が外部から調達（金融機関からの借入や社債発行などによる資金調達及び返済・償還、増資など）されたのか、そしてどれくらいの返済がなされたのかを表す。

【借入や社債の発行による入金＋株式の発行による入金－借入金の返済や社債の償還による出金－配当の支払による出金】

キャッシュフロー計算書		
I 営業活動によるキャッシュフロー		
税引前当期利益	× × × ×	
減価償却費	× × × ×	
・ ・ ・ ・ ・	× × × ×	
・ ・ ・ ・ ・	× × × ×	
営業活動によるキャッシュフロー	× × × ×	→営業活動に関する現金及び現金同等物の出入り増減を表す
II 投資活動によるキャッシュフロー		
固定資産の売却による収入	× × × ×	
有価証券の売却による収入	× × × ×	
固定資産の購入による支出	－ × × × ×	
投資活動によるキャッシュフロー	× × × ×	→投資活動に関する現金及び現金同等物の出入り増減を表す
III 財務活動によるキャッシュフロー		
長期借入金による収入	× × × ×	
社債の発行による収入	× × × ×	
長期借入金の返済による支出	－ × × × ×	
財務活動によるキャッシュフロー	× × × ×	→財務活動に関する現金及び現金同等物の出入り増減を表す
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	× × × ×	→会計年度期間中の現金及び現金同等物の増減
V 現金及び現金同等物増加額	× × × ×	→貸借対照表の現金及び現金同等物の残高と一致する
VI 現金及び現金同等物期首残高	× × × ×	
VII 現金及び現金同等物期末残高	× × × ×	

### 3. 活動三区分を使ったキャッシュフロー計算書の経営分析

『営業活動によるキャッシュフロー』では、お金を産み出すパワーを読みとることができます。営業活動によるキャッシュフローがプラスを示し、かつ、現金及び現金同等物の期末残高が増えていればその1年間の経営は成功だったこと表します。

『投資活動によるキャッシュフロー』『財務活動によるキャッシュフロー』では、プラスばかりでなくマイナスになる場面もよくあります。

『営業活動によるキャッシュフロー』がプラスであることは不可欠ですが、『投資活動によるキャッシュフロー』と『財務活動によるキャッシュフロー』はプラスであれば良いわけではなく、かえってマイナスになっているほうが良い場面が多いものです。

とりわけ、『財務活動によるキャッシュフロー』はマイナス（返済超過）の方が望ましいでしょう。

活動三区分を使ったキャッシュフロー計算書の簡単な経営分析の仕方を見てみましょう。

C/F区分／パターン	1	2	3
営業活動C/F	+	+	+
投資活動C/F	-	-	+
財務活動C/F	-	+	-
企業の特徴・内容	絶好調型 本業好調 設備投資 借入金の返済	新規成長型 本業好調 設備投資 資金を財務調達	清算出直し型 本業好調 設備投資等処分 借入金の返済

C/F区分／パターン	4	5	6
営業活動C/F	-	-	-
投資活動C/F	-	+	-
財務活動C/F	+	-	-
企業の特徴・内容	飛躍希望型、衰退期型 本業不調 設備投資 資金を財務調達	生き残り必死型 本業不調 設備投資等処分 借入金の返済	夢よもう一度型 本業不調 設備投資 借入金の返済

『1のパターン』を見ると、本業が好調で、本業で稼いだ資金を将来のための設備投資に使い、さらに本業で稼いだ資金で借入金を返済し財務を健全にしていることが読みとれます。経営が極めて良好な企業の典型で、超優良企業、絶好調企業と言えるでしょう。

『2のパターン』は、本業が好調であり、本業で稼いだ資金と、財務からの資金を利用して設備投資を行い将来のさらなる利益を目指している企業と見ることができます。優良企業、またはさらなる成長を目指す新規成長企業に見かけるパターンです。

『3のパターン』は、本業は好調だが、過去の過大な設備投資を売却等により整理して

おり、さらにそれにより嵩んだ借入金を返済し財務を健全化しようとしている様子が伺えられます。バブル期に不動産投資等にはしった企業によく見られるパターンです。

『4のパターン』は、本業は不調だが、まだ借金できる体力があったことから財務により資金調達をして、設備投資を行い積極的に打って出よう、躍進しようという姿勢が読みとれます。将来、本業のプラス転換が見込めるならば成長の可能性があります。反対にプラス転換が見込めないようであれば、衰退期によく見かけるパターンとなります。

『5のパターン』は、本業が赤字で、そのため借入金の負担が重くのしかかってきており、その返済のために土地売却や有価証券の売却を行い、その資金を借入金の返済に廻している様子が伺われます。

『6のパターン』は、本業が不調なため、過去に蓄積した資金を取り崩して借入金の返済を行い、併せて新規事業展開のための設備投資を行っている様子が読みとれます。

#### 参考文献

- ・『やさしくわかるキャッシュフロー』 野村智夫 竹俣耕一 日本実業出版社
- ・『キャッシュフロー経営分析がスラスラできる本』 赤岩 茂 中経出版
- ・『パソコンを使った実践キャッシュフロー計算書の作り方』 野村郁夫 かんき出版
- ・『この一冊でキャッシュフローがわかる!』 横山 明 三笠書房
- ・『決算書がわかる!』 池田陽介 三笠書房